

校長室の窓から

碓東小学校・学校通信
平成30年3月23日（金）
培根の教育 No.19

それぞれの輝かしい未来を願う 卒業式

本日、平成29年度卒業証書授与式が無事挙行でき、48名の6年生が巣立って行きました。

今日は、2日前に降った雪が嘘のように温かく、卒業式日和になり、安中市教育委員会 教育長 桑原幸正様をはじめ多くのご来賓やご家族の皆様をお迎えして卒業式をすることができました。

卒業生は、ぴしっとした返事と態度で「卒業証書」を受け取り、「お別れの言葉」では大きな声と素晴らしい歌声で締めくくることができました。式に参加した3年生～5年生の在校生も、長時間にわたる式の最後まで私語をしたり、身体を動かしたりせず、顔を上げてしっかり卒業生を見送ることができ、立派でした。

卒業後の進路は、それぞれ違いますが、同じ小学校で学んだ仲間同士であるという「絆」は変わることはありません。卒業生一人一人の人生が輝かしいものであるように、心から祈っています。そして、またいつの日かこの碓東小学校に再び集える日が来ることを期待しています。



伝統や夢をつなぐ 植樹をしました

碓東小学校の南側にある岩野谷公民館と岩野谷保育園の下の斜面には、毎年春になると目を楽しませてくれる桜が約20本植えられています。碓東小でも長い間、満開の桜を見させていただき恩恵に預かり、入学式の時にはその桜を背景に写真を撮ったご家庭も多いことと思います。

しかし、最近は樹齢が進んだことで枯れ枝が目立ち、樹高が高くて強風や降雪時に折れたり倒れたりしたときには、電線を切ったり通行人に当たったりする危険性も指摘されたため、公民館や地元で協議された結果、今年中に全て伐採することになったそうです。樹種は「ソメイヨシノ」で、病気になりやすいと報道もされ、日本各地でも仕方なく伐採される例が多いようです。

したがって、学校から見る桜は、この春の花が見納めとなります。学校のものではありませんが、桜がなくなることは残念で、寂しい思いで一杯です。伐採後の斜面の利用方法は未定だそうです。

実は、碓東小には体育館の裏のソメイヨシノと校庭のブランコ横にあるしだれ桜しかありません。南斜面の桜が見納めとなると、春なのに校庭に桜が見られない寂しい入学式になってしまいます。そこで、校庭でも桜が見られるようにしたいという思いから、急遽、1年生～6年生の全校児童で桜の苗の植樹をすることになりました。数年後からは少しずつ花が見られることを期待しています。植えたのは、開花期や花形がソメイヨシノに近い「神代曙」（ジンダイアケボノ）という種類を2本です。今の子供たちが大人になって、その子供たちがまた入学してくる頃には、立派な木になっていることを願って、子供たち一人一人が心を込めて土を入れて植えました。場所は、校庭南西側です。学校におこしの際はご覧ください。

「神代曙（ジンダイアケボノ）」の植樹→

